

```
*****
**                                     **
**           Systemwalker Centric Manager           **
**   アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド   **
**                                     使用手引書                                     **
**                                     **
*****
```

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Manager アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドの使用方法について説明します。
なお、本書は、Windows版/Solaris版/Linux版を対象としています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerの監視機能の設定および操作する方を対象としています。
また、本書を読む場合、OSやGUIの一般的な操作をご理解の上でお読みください。

略語表記について

- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows 7”と表記します。
 - － Windows (R) 7 Home Premium
 - － Windows (R) 7 Professional
 - － Windows (R) 7 Enterprise
 - － Windows (R) 7 Ultimate
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 R2”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Foundation
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Standard
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Enterprise
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Datacenter
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Standard without Hyper-V(TM)
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Enterprise without Hyper-V(TM)
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Datacenter without Hyper-V(TM)
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Foundation”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Foundation
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Foundation
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Server Core”、または“Server Core”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Standard Server Core
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Server Core
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise Server Core
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Server Core
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter Server Core
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Server Core
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 STD”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Standard
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 DTC”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 EE”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 STD”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Standard x64 Edition
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Standard Edition
- ・以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 DTC”と表記します。
 - － Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Datacenter x64 Edition

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 2000”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server operating system
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows NT(R)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) XP”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
- Microsoft(R) Windows(R) Millennium Editionを“Windows(R) Me”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Editionを“Windows(R) 98”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 95 Second Editionを“Windows(R) 95”と表記します。
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 STD(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 DTC(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 EE(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) 2000 Server”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) XP x64”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
- Systemwalker Centric Manager Standard Editionを“SE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionを“EE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionを“GEE版”と表記します。
- Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、Global Enterprise Editionを“GEE”と表記します。
- Windows上、Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Windows版”と表記します。
- Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows for Itanium版”と表記します。
- Windows Server 2003 STD(x64)/Windows Server 2003 DTC(x64)/Windows Server 2003 EE(x64)に対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows x64版”と表記します。
- Solarisで動作するSystemwalker Centric Managerを“Solaris版 Systemwalker Centric Manager”または“Solaris版”と表記します。
- HP-UX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“HP-UX版Systemwalker Centric Manager”または“HP-UX版”と表記します。
- AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“AIX版Systemwalker Centric Manager”または“AIX版”と表記します。
- Linux上、Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerを

- “Linux版Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と表記します。
また、Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Linux for Itanium版”と表記します。
- ・ Linux上、Linux for Intel64に対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と表記します。また、Linux for Intel64に対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Linux for Intel64版”と表記します。
 - ・ Solaris、Linux、HP-UX、AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを、“UNIX版Systemwalker Centric Manager”または“UNIX版”と表記します。
 - ・ Microsoft(R) SQL Server(TM)を“SQL Server”と表記します。
 - ・ Microsoft(R) Visual C++を“Visual C++”と表記します。
 - ・ Microsoft(R) Cluster ServerおよびMicrosoft(R) Cluster Serviceを“MSCS”と表記します。
 - ・ Oracle Solarisを“Solaris”と表記します。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

商標について

Apache、Tomcatは、The Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
APC、PowerChuteは、American Power Conversion Corp. の登録商標です。
ARCserveは、米国CA, Inc. の登録商標です。
Citrix、MetaFrameは、Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。
IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。
Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
JP1は、株式会社日立製作所の日本における商標または登録商標です。
LaLaVoiceは、株式会社東芝の商標です。
LANDeskは、米国およびその他の国におけるAvocent Corporationとその子会社の商標または登録商標です。
Laplankは、米国Laplank Software, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。
Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Mozilla、Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
NEC、SmartVoice、WinShareは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。
Netscape、Netscapeの N および操舵輪のロゴは、米国およびその他の国におけるNetscape Communications Corporationの登録商標です。
OpenLinuxは、The SCO Group, Inc. の米国ならびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Oracleは、米国Oracle Corporationの登録商標です。
Palm、Palm OS、HotSyncは、Palm, Inc. の商標または登録商標です。
R/3およびSAPは、SAP AGの登録商標です。
Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
SolarisおよびすべてのSolarisに関連する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Oracle Corporationの商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。
Sun、SunClusterは、米国およびその他の国における米国Oracle Corporationの商標または登録商標です。
Symantec、Symantecロゴ、LiveUpdate、Norton AntiVirusは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Symantec pcAnywhere、Symantec Packager、ColorScale、SpeedSendは、Symantec

Corporationの米国およびその他の国における商標です。
 Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、Sun Microsystems, Inc.、Scriptics Corporation他
 が作成したフリーソフトです。
 TRENDMICRO、Trend Micro Control Manager、Trend Virus Control System、TVCS、
 InterScan、ウイルスバスター、INTERSCAN VIRUSWALL、eManagerは、トレンドマイク
 ロ株式会社の登録商標です。
 Turbolinuxおよびターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の商標または登録
 商標です。
 UNIXは、米国およびその他の国におけるThe Open Groupの登録商標です。
 UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の登録商標です。
 Veritasは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 VirusScanおよびNetShieldは、米国McAfee, Inc. および関連会社の商標または登録商
 標です。
 VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、VMotionはVMware, Inc. の米国およびその他の国
 における登録商標または商標です。
 ショートメール、iモード、mova、シティフォンは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコ
 モ（以下NTTドコモ）の登録商標です。
 その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

平成23年4月

改版履歴
平成22年 6月 初版
平成23年 4月 1.1版 ・ 3. 2. 対象バージョン・レベル Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13. 4. 1の記事を追加 ・ 5. 5. コマンド格納場所 /opt/FJSVsapag/binに対する誤字を修正

Copyright 2011 FUJITSU LIMITED

1. 機能概要

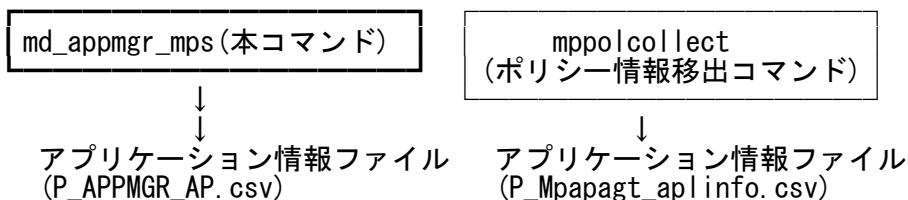
本コマンドは、監視ポリシー(通常モード)に登録されているアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのうち、アプリケーション情報を移します。また、アプリケーション情報を指定されたポリシー名でアプリケーション監視[監視条件]ポリシーに登録します。

移出されたアプリケーション情報を、別の運用管理サーバの監視ポリシーとして登録したり、監視ポリシー(互換モード)でmppolcollect(ポリシー情報移出コマンド)を使用して移出したアプリケーション情報ファイルを、監視ポリシー(通常モード)へ登録することができます。

運用イメージは以下のとおりです。

《監視ポリシー(通常モード)》 《監視ポリシー(互換モード)》

- 【移出】 アプリケーション情報をCSVファイルに出力します。
※移出元運用管理サーバで実施します。



- 【編集】 アプリケーション情報ファイルを変更します。

- 【登録】 アプリケーション監視[監視条件]のアプリケーション情報を監視ポリシー(通常モード)へ登録します。
※登録先運用管理サーバで実施します。

md_appmgr_mps (本コマンド)

【ポリシーの設定と配付】

アプリケーション監視[監視条件]ポリシーの登録後は、そのポリシーを設定しているポリシーグループの配付操作が必要です。この時、下記点に御留意下さい。
※本コマンドで新規に登録したアプリケーションを監視する場合、アプリケーションの詳細設定を行って下さい。
※ポリシーの設定の詳細は、Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編を参照してください。

2. 提供モジュール

本機能により提供されるモジュールは、以下のとおりです。

- ・アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド
[Windows for Itanium版 / Windows for Itanium以外のWindows版]
md_appmgr_mps.exe
P_MPapaAplinfo_POID.exe
[Solaris版 / Linux for Itanium版 / Linux for Itanium以外のLinux版]
md_appmgr_mps
P_MPapaAplinfo_bin
P_MPapaAplinfo_POID
- ・使用手引書(本書)
readme.txt

3. 動作環境について

本コマンドは、以下の環境で動作します。

3. 1. 動作OS

[Windows for Itanium版]

- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems

[Windows for Itanium以外のWindows版]

- ・ Windows(R) 2000 Server
- ・ Windows(R) 2000 Advanced Server
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x86)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x86)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x86)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x86)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) (x86)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) (x86)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) (x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) (x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise(x64)
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter(x64)

[Solaris版]

- ・ Solaris(TM) 9 Operating System
- ・ Solaris(TM) 10 Operating System

[Linux for Itanium版]

- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.0 (for Intel Itanium)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.1 (for Intel Itanium)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.2 (for Intel Itanium)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.3 (for Intel Itanium)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.4 (for Intel Itanium)

[Linux for Itanium以外のLinux版]

- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.0 (for x86)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.1 (for x86)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.2 (for x86)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.3 (for x86)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.4 (for x86)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.0 (for Intel64)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.1 (for Intel64)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.2 (for Intel64)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.3 (for Intel64)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5.4 (for Intel64)

3. 2. 対象バージョン・レベル

Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.4.0
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.4.1(注)

注) Red Hat Enterprise Linux 5の場合は、技術情報ホームページで公開されているアプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドを使用してください。

Red Hat Enterprise Linux 6の場合は、製品に同梱されているアプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドを使用してください。

3. 2. 1 前提条件

以下の緊急修正を適用してください。

- 【Windows 版】
T004521WP-01を含む緊急修正
- 【Windows x64版】
T004529XP-01を含む緊急修正
- 【Windows for Itanium版】
T004528IP-01を含む緊急修正
- 【Solaris 版】
T004524SP-01を含む緊急修正
- 【Linux 版】
T004525LP-01を含む緊急修正
- 【Linux for Intel64版】
T004526LP-01を含む緊急修正
- 【Linux for Itanium版】
T004527QP-01を含む緊急修正

3. 3. 対象インストール種別

運用管理サーバ

4. インストール・アンインストールの手順

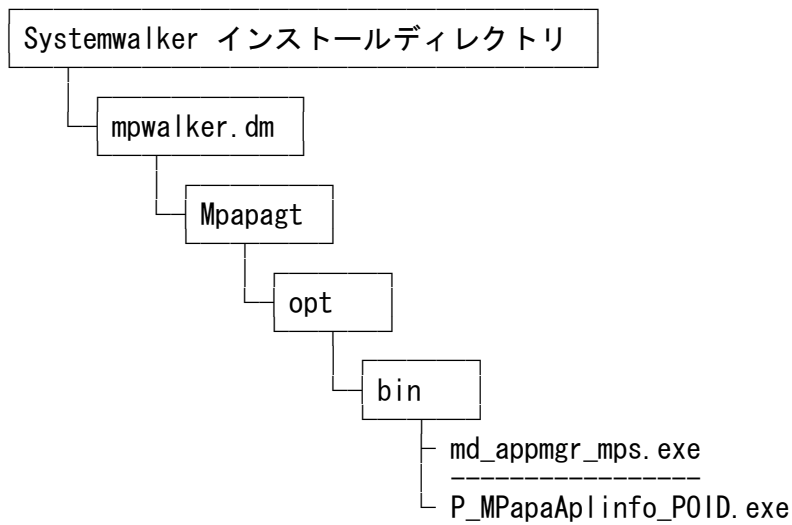
アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドをSystemwalker 技術情報ホームページよりダウンロードし、運用管理サーバ上でインストール・アンインストールします。

4. 1. インストール

インストールは、以下の手順で行います。

《Windows》

- (1) Administrators権限のユーザでログインします。
- (2) Systemwalker技術情報サイトよりダウンロードした自己解凍形式ファイル (md_appmgr_mps_20100630.exe) を任意のディレクトリに複写します。
- (3) md_appmgr_mps_20100630.exe を実行します。実行後に以下のコマンドが展開されます。
 - ・ md_appmgr_mps.exe
 - ・ P_MPapaApIinfo_POID.exe
- (4) Systemwalker Centric Managerがインストールされている以下のディレクトリ配下に解凍したコマンドをコピーします。



《UNIX》

- (1) システム管理者(スーパーユーザ)になります。

- (2) Systemwalker技術情報サイトよりダウンロードした圧縮ファイル([Solaris版] md_appmgr_mps_20100630.tar.Z / [Linux版] md_appmgr_mps_20100630.tar.gz)を任意のディレクトリに複写します。
- (3) ダウンロードした圧縮ファイルを展開します。
[Solaris版]

```
# zcat md_appmgr_mps_20100630.tar.Z | tar xvf -
```

[Linux版]

```
# tar xzvf md_appmgr_mps_20100630.tar.gz
```

以下のコマンドが展開されます。

- ・ md_appmgr_mps
- ・ P_MPapaAplinfo_bin
- ・ P_MPapaAplinfo_POID

- (4) Systemwalker Centric Managerがインストールされている以下のディレクトリ配下に展開したコマンドをコピーします。

```
# cp -p ./md_appmgr_mps /opt/FJSVsapag/bin  
# cp -p ./P_MPapaAplinfo_bin /opt/FJSVsapag/bin  
# cp -p ./P_MPapaAplinfo_POID /opt/FJSVsapag/bin
```

4. 2. アンインストール

アンインストールは、以下の手順で行います。

《Windows》

- (1) Administrators権限のユーザでログインします。
- (2) 以下のコマンドを削除します。

```
$ (DIR) %mpwalker.dm%Mpapagt%opt%bin%md_appmgr_mps.exe  
$ (DIR) %mpwalker.dm%Mpapagt%opt%bin%P_MPapaAplinfo_POID.exe
```

※ \$DIRは、Systemwalkerインストール先ディレクトリです。

《UNIX》

- (1) システム管理者(スーパーユーザ)になります。
- (2) 以下のコマンドを削除します。

```
# rm /opt/FJSVsapag/bin/md_appmgr_mps  
# rm /opt/FJSVsapag/bin/P_MPapaAplinfo_bin  
# rm /opt/FJSVsapag/bin/P_MPapaAplinfo_POID
```

5. コマンドリファレンス

アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドについて説明します。

5. 1. 機能説明

本コマンドは、監視ポリシーの通常モードで使用可能です。
本コマンドは、監視ポリシーに登録されているアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのうち、アプリケーション情報を指定されたディレクトリに移出します。
また、指定されたディレクトリにあるアプリケーション情報を、指定されたポリシー名でアプリケーション監視[監視条件]ポリシーに登録します。
登録前に指定されたディレクトリにある登録対象の定義チェックを行うことも可能です。
なお、アプリケーション監視[監視条件]ポリシーの登録後は、アプリケーションの詳細設定を行った後、そのポリシーを設定しているポリシーグループの配付操作が必要です。

※本コマンドにより移出、登録できる情報は、6. ファイルリファレンスを参照してください。

5. 2. 記述形式

《ポリシーを移出する場合》

md_appmgr_mps	-A -p "polname" -out "directory"
---------------	------------------------------------

《登録前に定義チェックをする場合》

md_appmgr_mps	-chk "directory"
---------------	------------------

《ポリシーを登録する場合》

md_appmgr_mps	-in "directory" [-s]
---------------	----------------------

5. 3. オプション

-A :

監視ポリシーに登録されている全てのアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を移出します。

-p "polname" :

"polname" で指定したポリシー名のアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を移出します。

"polname" には、監視ポリシー[管理]画面の『ポリシー名』の欄に設定されている情報を"" (ダブルクォーテーション) で括って指定します。ポリシー名の複数指定はできません。

-out "directory" :

"directory" で指定したディレクトリの配下に、アプリケーション監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を移出します。出力形式は、“5. 8. 実行結果/出力形式”を参照してください。

"directory" には、ディレクトリ名を"" (ダブルクォーテーション) で括ってフルパスで指定します。

なお、“directory” は、利用者が事前に作成しておく必要があります。

"directory" は、アプリケーション監視[監視条件]のポリシーが存在しないディレクトリを指定してください。

-chk "directory" :

"directory" で指定したディレクトリの配下にある登録対象に対して、定義チェックを行います。“directory”配下の形式は、“5. 9. 入力形式”を参照してください。

"directory" には、ディレクトリ名を"" (ダブルクォーテーション) で括ってフルパスで指定します。

定義チェックは、誤った定義を検出した場合、その都度エラーを通知するメッセージを出力し、ディレクトリ配下にある全登録対象のチェックを実施します。全ての登録対象定義のチェックが終了した場合、チェック処理終了を通知するメッセージを出力します。

終了通知メッセージの前に、定義誤りを通知するエラーメッセージが出力されていた場合は、そのエラーメッセージの示す定義箇所を修正し、再度定義チェックを行ってください。エラーメッセージが出力されていない場合は、続いて-inオプションを指定して監視ポリシーに登録してください。

なお、定義チェックは、ポリシーを登録する先の運用管理サーバで実施してください。

-in "directory" :

"directory" で指定したディレクトリの配下にある全てのアプリケーション情報を監視ポリシーに登録します。“directory”配下の形式は、“5. 9. 入力形式”を参照してください。

登録するポリシー名が既に監視ポリシーに存在する場合、登録するアプリケーション情報と登録済のアプリケーション情報に違いがある場合のみ定義を更新します。

登録するポリシー名が監視ポリシーに存在しない場合、新規にポリシーが追加されアプリケーション情報が登録されます。
 “directory”には、ディレクトリ名を””（ダブルクォーテーション）で括ってフルパスで指定します。
 なお、-in オプション指定時も、監視ポリシーの登録前に “directory” で指定したディレクトリの配下にある登録対象に対して、定義チェックを行います。誤った定義を検出した場合は、登録処理を行いません。そのため、-in オプションでの登録前に -chk オプションで定義チェックを実施してください。

-s :

本オプションは、-in オプションと同時に指定します。
 本コマンドは、選択テンプレート情報ファイルを元に、各製品のテンプレートの選択状態を設定してポリシー登録します。
 移出元で選択されている各製品のテンプレートが、登録先にインストールされていない場合、定義チェックでエラーが検出され、ポリシー登録することはできませんが、本オプションを指定することで、登録することができます。

選択テンプレート情報ファイルについては、“6. 2 P_APPMGR_Templateinfo.csv (選択テンプレート情報ファイル)”を参照してください。

以下の場合に、登録元のCSVファイルに設定されているテンプレート定義と、登録時に設定されるテンプレート定義が異なることがあります。

1) 移出元システムと登録先システムで、インストールされているSystemwalkerテンプレートの製品が異なる場合。

なお、本オプションを指定して登録した場合は、登録後、監視ポリシー[管理]画面で監視対象製品(Systemwalkerテンプレート)を確認し、運用に合わせた監視対象製品を選択し直してください。

5. 4. 復帰値

- 0 : コマンドが正常終了しました。
- 2 : コマンドが異常終了しました。

5. 5. コマンド格納場所

Windows	Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥Mpapagt¥opt¥bin
UNIX	/opt/FJSVsapag/bin

5. 6. 実行に必要な権限/実行環境

- ・本コマンド実行時には、Systemwalker Centric Managerが起動している必要があります。本コマンドを実行する前に、Systemwalker Centric Managerの機能(サービス/デーモン)が正常に起動されていることを、プロセスの状態表示コマンド(mppviewc)を使用して確認してください。mppviewcコマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。
- ・以下の場合、本コマンドは使用しないでください。
 - 監視ポリシー[管理]画面の起動中。
 - 本コマンド(md_appmgr_mps)の実行中。
 - イベント監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド(md_mpaosf)の実行中。
- ・運用管理サーバのクラスタ運用で本機能を使用する場合、運用系だけで実行することができます。
- ・運用管理サーバで実行可能です。全体監視サーバでは実行できません。
- ・本コマンドは、Systemwalker Centric Manager をインストール後、監視ポリシー[管理]画面を1度起動し、監視ポリシーの初期化処理が完了した環境で使用してください。

【Windows】

- ・Administrator権限が必要です。
- ・Windows Server 2008 STD/Windows Server 2008 DTC/Windows Server 2008 EE/Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems で本コマンドを実行する場合、

[管理者として実行]を選択して起動したコマンドプロンプト上で実行してください。
以下にコマンドプロンプトの起動例を示します。

例：

[スタート]-[アクセサリ]-[コマンド プロンプト]を右クリックして表示されるメニューから、[管理者として実行]を選択して起動する。

【UNIX】

・システム管理者(スーパ・ユーザ)権限が必要です。

5. 7. 使用例

《ポリシーを移出する場合 1》

監視ポリシーに登録されている全てのアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を、c:¥temp¥backup (UNIX の場合は /temp/backup)配下に移出します。

【Windows】

```
md_appmgr_mps -A -out "c:¥temp¥backup"
```

【UNIX】

```
md_appmgr_mps -A -out "/temp/backup"
```

《ポリシーを移出する場合 2》

監視ポリシーに登録されているポリシー名 policyA のアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を、c:¥temp¥backup (UNIX の場合は /temp/backup)配下に移出します。

【Windows】

```
md_appmgr_mps -p "policyA" -out "c:¥temp¥backup"
```

【UNIX】

```
md_appmgr_mps -p "policyA" -out "/temp/backup"
```

《登録前に定義チェックをする場合》

c:¥temp¥backup (UNIX の場合は /temp/backup)配下にある登録対象に対して、定義チェックを行います。

【Windows】

```
md_appmgr_mps -chk "c:¥temp¥backup"
```

【UNIX】

```
md_appmgr_mps -chk "/temp/backup"
```

《ポリシーを登録する場合》

c:¥temp¥backup (UNIX の場合は /temp/backup)配下にある全てのアプリケーション監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を監視ポリシーに登録します。

【Windows】

```
md_appmgr_mps -in "c:¥temp¥backup"
```

【UNIX】

```
md_appmgr_mps -in "/temp/backup"
```

《ポリシーを強制登録する場合》

c:¥temp¥backup (UNIX の場合は /temp/backup)配下にある全てのアプリケーション

監視[監視条件]ポリシーのアプリケーション情報を監視ポリシーに強制登録します。
【Windows】

```
md_appmgr_mps -in "c:¥temp¥backup" -s
```

【UNIX】

```
md_appmgr_mps -in "/temp/backup" -s
```

5. 8. 実行結果/出力形式

- ・ 移出先ディレクトリ配下に格納されるファイル名

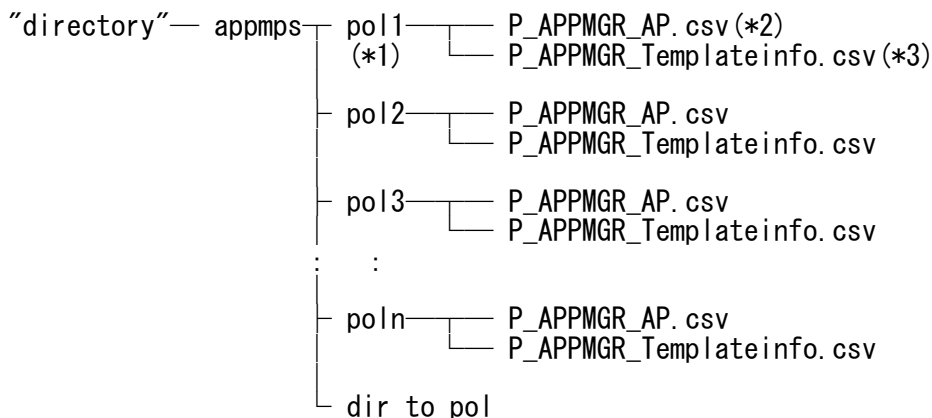
ファイル名	内容
P_APPMGR_AP.csv	監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル
P_APPMGR_Templateinfo.csv	選択テンプレート情報ファイル
dir_to_pol	ポリシー名ファイル

—各ファイルの詳細については、“6. ファイルリファレンス”を参照してください。

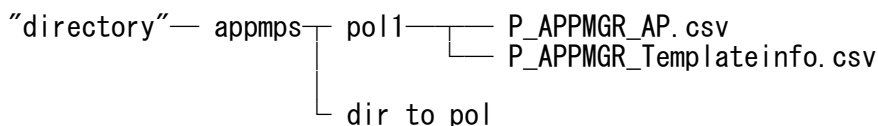
—本機能によって移出されるファイルの文字コードは、SJISになります。
SJIS変換できない文字は代替文字 (“_”アンダーバー)になります。

- ・ 移出先ディレクトリ配下の構成
オプション `-out "directory"` で指定したディレクトリの配下には、以下の構成でファイルが格納されます。

《オプションが `-A -out "directory"` の場合》



《オプションが `-p "polname" -out "directory"` の場合》

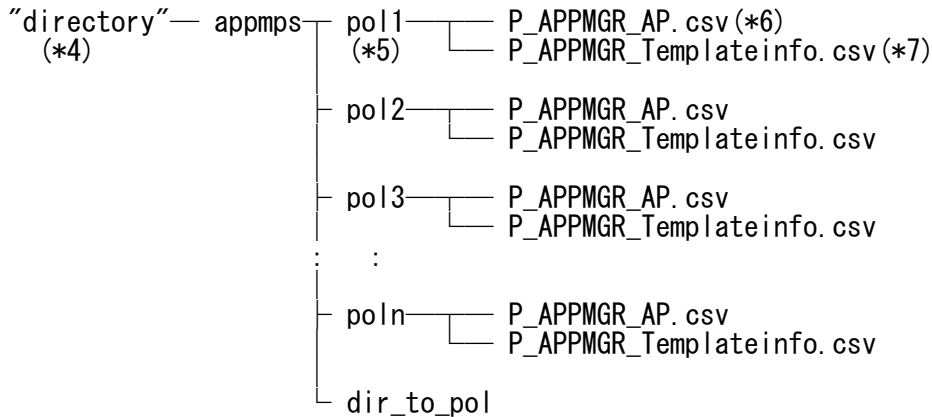


- (*1) ディレクトリ `pol1`, `pol2`, `pol3`・・・`poln` (`n`は数字) は、監視ポリシーに登録されているアプリケーション監視[監視条件]ポリシーの数分作成されます。ポリシー名とディレクトリ名 (`poln` : `n`は数字) の関係は、`appmps`ディレクトリ配下にファイル名`dir_to_pol`として移出されます。アプリケーション一覧に何も定義されていない場合、本ディレクトリは移出されません。
- (*2) アプリケーション監視[監視条件]でユーザ追加のアプリケーションを登録していない場合、本ファイルは移出されません。
- (*3) アプリケーション監視[監視条件]で監視対象製品を選択していない場合、本ファイルは移出されません。

5. 9. 入力形式

- ・登録元ディレクトリ配下に格納するファイル名
移出時と同じです。“5. 8. 実行結果/出力形式”を参照してください。
- ・登録元ディレクトリ配下の構成

《オプションが -chk “directory” または -in “directory” の場合》



- (*4) オプションが -A -out “directory” または -p “polname” -out “directory” で移出した時に作成された“directory”配下のディレクトリを、そのまま指定することができます。
- (*5) 登録するアプリケーション監視[監視条件]ポリシーの数分ディレクトリ pol1, pol2, pol3・・・poln (nは数字) を作成します。登録するポリシー名とディレクトリ名 (poln : nは数字) の関係は、appmpsディレクトリ配下のポリシー名ファイルdir_to_polへ設定してください。
- (*6) mppolcollect (ポリシー情報移出コマンド) で移出した場合、ファイル名を以下のように変更して格納してください。
変更前 : P_Mpapagt_aplinfo.csv
変更後 : P_APPMGR_AP.csv
mppolcollectで出力された(アプリケーション情報ファイル)をそのまま格納できますが、以下項目は無視されます。
 - ・稼働ポリシー名
 - ・しきい値ポリシー名
 - ・製品名
 - ・製品バージョン
 - ・会社名
 - ・著作権
 - ・説明
 - ・パッケージ名mppolcollectコマンドの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください
本ファイルが無い状態で、登録された場合アプリケーション一覧に何も定義がされていないポリシーとして登録されます。
- (*7) 本コマンドによる移出時に格納されているファイルをそのまま利用します。アプリケーション監視[監視条件]で監視対象製品を選択していないで移出した場合、本ファイルは移出されていません。
本ファイルが無い状態で登録された場合、各製品のテンプレートが1つも選択されていないポリシーとして登録されます。

登録時は、dir_to_pol (ポリシー名ファイル) に設定されている全ての情報を登録します。登録元ディレクトリの構成が不当な場合は、登録は行われません。

6. ファイルリファレンス

アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドが移出/登録するファイルについて説明します。

6. 1. P_APPMGR_AP.csv (監視ポリシー (通常モード) 用アプリケーション情報ファイル)

○ 使用用途

- ・ アプリケーション情報登録時
本ファイルはmd_appmgr_mps(アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド)に-inオプションを指定したときに使用します。
- ・ ポリシー情報移出時
md_appmgr_mps(アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド)で本ファイルを出力します。

○ 格納場所

Windows	任意¥appmps¥poln(*8)
UNIX	任意/appmps¥pol1n(*8)

(*8) アプリケーション監視[監視条件]ポリシーの数分ディレクトリ
pol1, pol2, pol3・・・poln (nは数字)
ディレクトリ構成の詳細は『5. 8. 実行結果/出力形式』、『5. 9. 入力形式』を参照してください。

○ ファイル形式

```
para1, para2, para3, para4, para5, para6, para7, para8, para9  
para1, para2, para3, para4, para5, para6, para7, para8, para9  
para1, para2, para3, para4, para5, para6, para7, para8, para9  
.  
.  
.  
para1, para2, para3, para4, para5, para6, para7, para8, para9
```

○ パラメタ

- para1: 実行ファイル名
255バイト以内の文字列を指定します。
本項目は必須項目です。
- para2: インストールディレクトリ名
512バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。
- para3: アプリケーション名 (表示名)
128バイト以内の文字列を指定します。
128バイト以上指定された場合は、先頭から128バイト以内の文字列が利用されます。
本項目は省略可能です。
省略された場合、実行ファイル名が利用されます。
- para4: 起動コマンドパス名
512バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。
- para5: 起動コマンド名
255バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。
- para6: 起動コマンドパラメタ
512バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。
- para7: 停止コマンドパス名
512バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。
- para8: 停止コマンド名
255バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。
- para9: 停止コマンドパラメタ
512バイト以内の文字列を指定します。
本項目は省略可能です。

備考1.
各項目に改行コードは使用できません。

備考2.

各項目に「,」(カンマ)がある場合は「”」(ダブルクォーテーション)でその項目すべてを括弧で指定してください。
ただし、Microsoft(R)Excelを利用して編集する場合はMicrosoft(R)Excelの機能により「”」(ダブルクォーテーション)が付加されるので必要ありません。

備考3.

使用する文字コードはSJISです。
最大長は登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。
全角文字の1文字はEUC、SJIS文字コードでは2バイトですが、UTF-8文字コードに変換すると3バイトまたは4バイトになる場合があります。
また、半角カナ文字の1文字はEUCコードでは2バイト、SJISコードでは1バイトですが、UTF-8文字コードの場合は3バイトとなります。
そのため、EUCまたはSJIS文字コードの文字列をUTF-8文字コードに変換した際にはバイト数が増加する場合があります。

備考4.

mppolcollect(ポリシー情報移出コマンド)で移出した、P_Mpapagt_aplinfo.csv(アプリケーション情報出力ファイル)とは形式が異なります。
mppolcollectコマンドおよびP_Mpapagt_aplinfo.csvファイルの詳細は、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

備考5.

実行ファイル名およびインストールディレクトリ名の組み合わせで、アプリケーション情報に重複がないかチェックされます。

○ 使用例

【Windows版】

```
aaa.exe, C:¥exe, aaa, C:¥temp¥start, start.exe, , C:¥temp¥stop, stop.exe, ,
```

【UNIX版】

```
sendmail, /usr/lib, MailDaemon, /usr/lib, sendmail, -bd, , , ,
```

6. 2. P_APPMGR_Templateinfo.csv(選択テンプレート情報ファイル)

本ファイルには、アプリケーション監視[監視条件]画面の[監視対象製品]タブで、選択している監視対象製品(Systemwalkerテンプレート)の情報が格納されています。
本コマンド(md_appmgr_mps)で移出すると作成されます。登録時には、本ファイルに格納されている製品が監視対象製品(Systemwalkerテンプレート)として登録されます。
本ファイルは内部情報ファイルです。編集は行わないでください。

6. 3. dir_to_pol(ポリシー名ファイル)

○ 使用用途

md_appmgr_mpsコマンドの移出先/登録元のディレクトリにあるディレクトリ名とポリシー名の関係を結びつけます。

○ 格納場所

Windows	任意¥appmps
UNIX	任意/appmps

○ ファイル形式

```
pol1="ポリシー名1","コメント1"  
pol2="ポリシー名2","コメント2"  
pol3="ポリシー名3","コメント3"  
.  
.  
.  
poln="ポリシー名n","コメントn"
```

○ パラメタ

polx :
ディレクトリ名。固定文字列で pol1, pol2, pol3・・・poln (nは数字)。

ポリシー名x :

監視ポリシー[管理]画面の『ポリシー名』の欄に設定されている情報。
使用する文字コードはSJISです。"" (ダブルクォーテーション) で括って128バイト以内の文字列で指定します。
なお、ポリシー名に以下の文字は使用できません。

```
¥/:;,. *?<>|()「」-“!”
```

コメントx :

監視ポリシー[管理]画面の『コメント』の欄に設定されている情報。
使用する文字コードはSJISです。"" (ダブルクォーテーション) で括って256バイト以内の文字列で指定します。
コメントは省略可能です。省略時は""と指定します。

○ 使用例

```
pol1="運用管理サーバ用", "監視システム用のポリシーです"  
pol2="部門管理サーバ用", ""  
pol3="業務サーバ用", "Windows用のポリシーです"
```

7. 運用上の留意事項

《登録対象のアプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシーに監視対象製品 (Systemwalker テンプレート) が登録されている場合》
監視ポリシーの移出元システムと登録先システムで、インストールしている Systemwalker テンプレートを同じにしてください。インストールしている Systemwalker テンプレートが異なる場合、アプリケーション情報を監視ポリシーに登録できないことがあります。
この時 -in オプションと同時に -s オプションを指定すると、登録先システムにインストールされている Systemwalker テンプレートの情報のみ監視ポリシーに登録されます。

作成したディレクトリ (-A または -p オプションを指定して移出したディレクトリではないディレクトリ) を登録元ディレクトリとして指定している場合は、監視ポリシーへ登録後、ポリシーグループの配付操作前に、アプリケーション監視 [監視条件] 画面の [監視対象製品] タブからアプリケーション監視の対象となる製品を選択してください。

《ポリシーの登録中/移出中について》
本コマンドでポリシーの登録中、または移出中にコマンドを強制終了させないでください。
強制終了した場合は、運用管理サーバを再起動した後、再度、ポリシーの移出、または登録を実施してください。

8. メッセージ

アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンドにより出力されるメッセージを以下に示します。

```
md_appmgr_mps: INFO: 101: The md_appmgr_mps command completed successfully.
```

```
md_appmgr_mps: INFO: 101: md_appmgr_mps コマンドは正常に終了しました。
```

【メッセージの意味】

md_appmgr_mps (アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド)が成功しました。

【対処方法】

対処する必要はありません。

```
md_appmgr_mps: INFO: 104: The md_appmgr_mps command checked on the definition file.
```

```
md_appmgr_mps: INFO: 104: 定義ファイルのチェック処理が終了しました。
```

【メッセージの意味】

登録対象に対して、定義チェック処理が終了しました。

【対処方法】

対処する必要はありません。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 104: The md_appmgr_mps command checked on the definition file.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 104: 定義ファイルのチェック処理が終了しました。
```

【メッセージの意味】

登録対象に対して、定義チェック処理が終了しました。

【対処方法】

登録対象にエラーがあります。直前に出力されているエラーメッセージ（複数行の場合があります。）に対処した後、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 202: The directory '%1' is not empty.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 202: 移出先ディレクトリ '%1' にデータが既に存在しています。
```

【メッセージの意味】

移出先ディレクトリにデータが既に存在しています。

【パラメタの意味】

%1: 移出先ディレクトリ名

【対処方法】

アプリケーション監視[監視条件]ポリシーが存在しない、別のディレクトリを移出先ディレクトリに指定してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 301: The md_appmgr_mps command abnormally ended.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 301: md_appmgr_mps コマンドは異常終了しました。
```

【メッセージの意味】

md_appmgr_mps (アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド)は異常終了しました。

【対処方法】

直前のエラーメッセージに対処した後、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 303: Usage: md_appmgr_mps -A -out "directory" OR md_appmgr_mps -p "polname" -out "directory" OR md_appmgr_mps -chk "directory" OR md_appmgr_mps -in "directory" [-s]
```

【メッセージの意味】

md_appmgr_mps (アプリケーション監視[監視条件]の監視ポリシー移出/登録コマンド)

ド)のパラメタ指定に誤りがあります。

【対処方法】

コマンドのパラメタ指定に誤りがないか確認し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 307: Failed to create the output destination directory. (%1)
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 307: 移出先ディレクトリの作成に失敗しました。 (%1)
```

【メッセージの意味】

移出先ディレクトリの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 作成に失敗したディレクトリ名

【対処方法】

「-out "directory"」オプションで指定したディレクトリ名を確認し、正しいディレクトリ名を指定してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 308: Cannot be executed using this policy mode.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 308:本コマンドは通常モードでのみ実行することができます。
```

【メッセージの意味】

本コマンドは、監視ポリシーが通常モードのときのみ実行することができます。

【対処方法】

md_appmgr_mpsコマンドは、通常モードで実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 310: Cannot be executed using this installation type.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 310: このインストール種別では実行できません。
```

【メッセージの意味】

このインストール種別では実行できません。

【対処方法】

md_appmgr_mpsコマンドは、運用管理サーバ上で実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 315: An internal error occurred. (%1)
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 315: 内部エラーが発生しました。 (%1)
```

【メッセージの意味】

内部エラーが発生しました。

【パラメタの意味】

%1: 調査用の内部情報

【対処方法】

以下を実施してください。

- ・プロセスの動作状況表示コマンド(mppviewc)で各機能のプロセスが正常に動作しているかどうか確認し、動作していない場合は、scentricmgrコマンドを実行してください。mppviewc(プロセスの動作状況表示コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。
- ・「-out "directory"」オプションで指定したディレクトリに十分な空き容量を確保してください。
- ・上記対処を実施しても現象が回避されない場合は、出力されたエラーメッセージを採取のうえ、保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、

“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 316: Failed to read the registry file. (%1)
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 316: レジストリファイルの読み込みに失敗しました。  
(%1)
```

【メッセージの意味】

レジストリファイルの読み込みに失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: エラー情報

【対処方法】

Systemwalker Centric Managerが正しくインストールされていないか、動作環境が壊れている可能性があります。保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 317: Exporting or registering the policy is  
unavailable as the Monitoring Policies [Management] window or  
md_mpaosf command or md_appmgr_mps command is in use.  
Close the Monitoring Policies [Management] window or wait until the end  
of command and try again.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 317: 監視ポリシー[管理]画面、md_mpaosfコマンド、  
または md_appmgr_mpsコマンドを使用中のため、ポリシーの移出、登録はでき  
ません。[監視ポリシー[管理]]画面を閉じる、あるいはコマンドの終了を待つ  
てから再実行してください。
```

【メッセージの意味】

監視ポリシー[管理]画面を使用中、md_appmgr_mpsコマンド、または md_appmgr_mpsコマンドを使用中のため、本コマンドを実行できませんでした。なお、本コマンドを強制終了した場合、次に本コマンドを実行する時に、このメッセージが出力されることがあります。

【対処方法】

以下の場合、本コマンドは実行できません。

- ・ 監視ポリシー[管理]画面の起動中
- ・ md_appmgr_mpsコマンド、md_appmgr_mpsコマンドの起動中

画面の終了、あるいはコマンドの復帰を待つ、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

本コマンドを強制終了した場合は、運用管理サーバを再起動した後、再度、本コマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 318: You do not have administrator privileges.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 318: 管理者権限がありません。
```

【メッセージの意味】

管理者権限がありません。

【対処方法】

本コマンドは、管理者権限があるユーザで実行してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 319: The definition file contains errors.
(%1 %2line)

md_appmgr_mps: ERROR: 319: 定義ファイルに誤りがあります。
(%1 %2行目)

【メッセージの意味】

定義ファイルに誤りがあります。

【パラメタの意味】

%1: 設定内容に誤りがあるファイル名

%2: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある箇所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 320: Failed to read the definition file. (%1)

md_appmgr_mps: ERROR: 320: 定義ファイルの読み込みに失敗しました。(%1)

【メッセージの意味】

定義ファイルの読み込みに失敗しました。失敗する原因として以下があります。

- ・ 指定したディレクトリまたは定義ファイルが存在しない。
- ・ 定義ファイルの形式が正しくない。
- ・ 定義ファイルのアクセス権に、読み込み許可がない。

【パラメタの意味】

%1: 読み込みに失敗したファイル名

【対処方法】

以下の対処を実施し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

オプションで指定したディレクトリ名を確認し、正しいディレクトリ名を指定する。または、ディレクトリ配下に定義ファイルを配置する。

定義ファイルの形式を正しい形式に修正する。

定義ファイルのアクセス権に、読み込み許可をつける。

上記対処で現象が回避されない場合、保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 322: Insufficient memory.

md_appmgr_mps: ERROR: 322: メモリ不足です。

【メッセージの意味】

メモリ不足です。

【対処方法】

システムメモリの空き状況を確認してください。空きメモリが少ない場合は不要なアプリケーションやサービスを停止して、空きメモリを確保してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 323: Failed to create the definition file. (%1)

md_appmgr_mps: ERROR: 323: ファイルの作成に失敗しました。(%1)

【メッセージの意味】

ファイルの作成に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 作成に失敗したファイル名

【対処方法】

表示されたファイル、およびファイルを格納するディレクトリが、書き込み可能かどうかを確認し、書き込めない原因を取り除いてください。

md_appmgr_mps: ERROR: 324: Failed to load the library. (%1)

md_appmgr_mps: ERROR: 324: ライブラリのロードに失敗しました。(%1)

【メッセージの意味】

ライブラリのロードに失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: ロードに失敗したライブラリファイル名

【対処方法】

保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 325: Failed to acquire the function address. (%1)

md_appmgr_mps: ERROR: 325: 関数アドレスの取得に失敗しました。(%1)

【メッセージの意味】

表示されたライブラリ関数のアドレス取得に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: アドレスの取得に失敗した関数名

【対処方法】

保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 326: Cannot execute this command because the Default setting has not been constructed for Monitoring Policy . You need to construct the Default setting for Monitoring Policy first to execute this command.

md_appmgr_mps: ERROR: 326: 監視ポリシーの[初期設定]が作成されていないため、本コマンドを実行できません。本コマンドを実行するには、1度、[監視ポリシー[管理]]画面を起動してください。

【メッセージの意味】

監視ポリシーの[初期設定]が作成されていないため、本コマンドを実行できませんでした。本コマンドを実行するには、1度、[監視ポリシー[管理]]画面を起動して[初期設定]を作成する必要があります。

監視ポリシーの[初期設定]は、Systemwalker Centric Managerのインストールし、フレームワークのデータベース作成後、初めて監視ポリシー[管理]画面を起動する時に自動で作成されます。

【対処方法】

[監視ポリシー[管理]]画面を起動して[初期設定]を作成してください。[初期設定]を作成した後、[監視ポリシー[管理]]画面を終了し、本コマンドを再実行してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 1002: The Systemwalker Centric Manager has stopped.

md_appmgr_mps: ERROR: 1002: Systemwalker Centric Manager が停止しています。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerが停止しています。

【対処方法】

本コマンドはSystemwalker Centric Managerが起動中に使用できます。
Systemwalker Centric Managerを起動した後、再実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1003: (%1) The following characters cannot be used  
in the policy name.  
¥/:;,. *?<>|()「」-“!”
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1003: (%1) ポリシー名には次の文字は使用できません。  
¥/:;,. *?<>|()「」-“!”
```

【メッセージの意味】

ポリシー名に使用できない文字(¥/:;,. *?<>|()「」-“!”)がdir_to_pol(ポリシー名
ファイル)に指定されています。

【パラメタの意味】

%1: 誤りを含むpoln(nは数値)

【対処方法】

dir_to_pol(ポリシー名ファイル)に記載している %1(poln)のポリシー名に、別の
文字を指定してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1051: Failure in code conversion process.  
(%1 %2line )
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1051: 定義ファイルの文字コード変換に失敗しました。  
(%1 %2行目 )
```

【メッセージの意味】

定義ファイルの文字コード変換処理に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: コード変換に失敗したファイル名

%2: コード変換に失敗した文字のファイル位置

【対処方法】

パラメタに表示されたファイル、ファイル位置に記載されている文字を別の文字に
変更して、再実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1052: The specified policy does not exist.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1052: 指定されたポリシーは存在しません。
```

【メッセージの意味】

指定されたアプリケーション監視[監視条件]のポリシーは存在しません。

【対処方法】

存在するポリシー名を指定して、再実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1053: The Application  
Monitor[Monitoring conditions] policy does not exist.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 1053: アプリケーション監視[監視条件]のポリシーは  
存在しません。
```

【メッセージの意味】

アプリケーション監視[監視条件]のポリシーは存在しません。

【対処方法】

アプリケーション監視[監視条件]のポリシーが存在する場合に、再実行してくださ
い。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 2005: The specified selected template information
file includes a Systemwalker template that has not been installed on
this Operation Management Server. (%1)
Install the relevant Systemwalker template on this system first, and
then register the file as a policy.
Specify the -s option when registering the selected template information
file having only installed Systemwalker templates as a policy.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 2005: 指定された選択テンプレート情報ファイルには、
本運用管理サーバにインストールされていないSystemwalkerテンプレートの定義
が含まれています。(%)1)
本システムにSystemwalkerテンプレートをインストールした後、ポリシー登録
してください。
インストールされているテンプレートのみをポリシー登録する場合は、-sオプシ
ョンを指定して登録してください。
```

【メッセージの意味】

指定されたアプリケーション監視 [監視条件] のポリシーには、本運用管理サーバにインストールされていないSystemwalkerテンプレートを含んでいるため、移元と同じ定義内容でポリシー登録することはできません。

【パラメタの意味】

%1: 対象の選択テンプレート情報ファイル名

【対処方法】

ポリシー登録先のシステムにSystemwalkerテンプレートをインストールしてください。

Systemwalkerテンプレートは、以下Systemwalker技術情報ホームページからダウンロードできます。

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/>

登録先システムにインストールされているテンプレートのみをCSVに設定してポリシー登録する場合は、-sオプションを指定して登録してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4001: This item cannot be omitted. (%1) Line
number: %2, Item: Executable File Name
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4001: 項目を省略する事はできません。(%)1) 行数:%2
項目:実行ファイル名
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv (監視ポリシー (通常モード) 用アプリケーション情報ファイル) において、実行ファイル名を省略することはできません。

【パラメタの意味】

%1: 設定内容に誤りがあるファイル名

%2: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある箇所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: WARNING: 4002: An item has been omitted, so the execution
file name will be used for this input item. (%1) Line number: %2, Item:
Display Name
```

```
md_appmgr_mps: WARNING: 4002: 項目が省略されているため、実行ファイル名を
入力項目として採用します。(%)1) 行数:%2 項目:表示名
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv (監視ポリシー (通常モード) 用アプリケーション情報ファイル) において、アプリケーション名 (表示名) が省略されているため実行ファイル名を入力項目として採用することを知らせるメッセージです。

【パラメタの意味】

%1: 設定内容に誤りがあるファイル名

%2: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

アプリケーション名（表示名）に実行ファイル名を登録する場合は、対処は必要ありません。

アプリケーション名（表示名）に実行ファイル名を登録しない場合は、誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes)
that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number:
%3, Item: Executable File Name
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えて
います。(%)2) 行数:%3 項目:実行ファイル名
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(実行ファイル名)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数

登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。

%2: 設定内容に誤りがあるファイル名

%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes)
that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number:
%3, Item: Install Directory
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えて
います。(%)2) 行数:%3 項目:インストールディレクトリ
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(インストールディレクトリ)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数

登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。

%2: 設定内容に誤りがあるファイル名

%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes)
that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number:
%3, Item: Startup Command - Command Path
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えて
います。(%)2) 行数:%3 項目:起動コマンド - コマンドパス
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(起動コマンド - コマンドパス)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数

登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。

%2: 設定内容に誤りがあるファイル名

%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes)
that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number:
%3, Item: Startup Command - Command
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えて
います。(%)2) 行数:%3 項目:起動コマンド - コマンド名
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(起動コマンド - コマンド名)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数
登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。
%2: 設定内容に誤りがあるファイル名
%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes)
that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number:
%3, Item: Startup Command - Command Parameters
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えて
います。(%)2) 行数:%3 項目:起動コマンド - コマンドパラメタ
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(起動コマンド - コマンドパラメタ)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数
登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。
%2: 設定内容に誤りがあるファイル名
%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes)
that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number:
%3, Item: Terminate Command - Command Path
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えて
います。(%)2) 行数:%3 項目:停止コマンド - コマンドパス
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(停止コマンド - コマンドパス)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数
登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。
%2: 設定内容に誤りがあるファイル名
%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes) that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number: %3, Item: Terminate Command - Command

md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えています。(%2) 行数:%3 項目:停止コマンド - コマンド名

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(停止コマンド - コマンド名)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数
登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。

%2: 設定内容に誤りがあるファイル名

%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

md_appmgr_mps: ERROR: 4003: The maximum number of characters (%1 bytes) that can be specified for this item has been exceeded. (%2) Line number: %3, Item: Terminate Command - Command Parameters

md_appmgr_mps: ERROR: 4003: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えています。(%2) 行数:%3 項目:停止コマンド - コマンドパラメタ

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(停止コマンド - コマンドパラメタ)が、設定できる最大長を超えています。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数
登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。

%2: 設定内容に誤りがあるファイル名

%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

md_appmgr_mps: WARNING: 4004: The maximum number of characters (%1 bytes) that can be specified for this item has been exceeded, so the first part of the string (up to the maximum number of characters) will be used. (%2) Line number: %3, Item: Display Name

md_appmgr_mps: WARNING: 4004: 項目に設定可能な最大文字数(%1 bytes)を超えているため、先頭から最大文字数までの文字列を採用します。(%2) 行数:%3 項目:表示名

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に設定した項目(表示名)が、設定できる最大長を超えているため、最大文字までの文字列を採用します。

【パラメタの意味】

%1: 設定できる最大バイト数
登録を行う運用管理サーバの文字コードに変換した結果の長さです。

%2: 設定内容に誤りがあるファイル名

%3: 設定内容に誤りがある行の番号

【対処方法】

アプリケーション名(表示名)に指定可能な最大文字移行が省略されて登録されても問題が無い場合は、対処は必要ありません。

アプリケーション名(表示名)に指定可能な最大文字移行が省略されて登録され

ると問題がある場合は、誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4005: The application specified in line %1 has already been defined in line %2. (%3)
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4005: %1行目に指定されたアプリケーションは既に%2行目に定義されています。(%3)
```

【メッセージの意味】

P_APPMGR_AP.csv(監視ポリシー(通常モード)用アプリケーション情報ファイル)に、インストールディレクトリ名、実行ファイル名が共に重複している行があります。

【パラメタの意味】

%1: 設定内容に誤りがある行の番号
%2: 設定内容に誤りがある行の番号
%3: 設定内容に誤りがあるファイル名

【対処方法】

誤りのある個所を修正し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4008: The command was executed in a standby cluster environment.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4008: クラスタシステムの待機系でコマンドが実行されました。
```

【メッセージの意味】

クラスタシステムの場合、本コマンドは運用系で実行する必要がありますが、待機系で実行されています。

【対処方法】

運用系で実行してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4009: Character code acquisition went wrong.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4009: 文字コードの取得に失敗しました。
```

【メッセージの意味】

本コマンドの起動に必要な、Systemwalker Centric Managerに設定されている文字コードの取得に失敗しました。

【対処方法】

Systemwalker Centric Managerが正しくインストールされていないか、動作環境が壊れている可能性があります。保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4011: Abnormal parameters.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4011: 不正なパラメタが指定されました。
```

【メッセージの意味】

内部コマンドの呼び出しに失敗しました。

【対処方法】

以下を実施してください。

- ・プロセスの動作状況表示コマンド(mppviewc)で各機能のプロセスが正常に動作しているかどうか確認し、動作していない場合は、scentricmgrコマンドを実行してください。mppviewc(プロセスの動作状況表示コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

い。

- ・ 「-out "directory"」 オプションで指定したディレクトリに十分な空き容量を確保してください。
- ・ 上記対処を実施しても現象が回避されない場合は、出力されたエラーメッセージを採取のうえ、保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4012: Communication error.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4012: 通信エラーが発生しました。
```

【メッセージの意味】

本コマンド実行時に起動するプロセスとの通信エラーが発生しました。

【対処方法】

本メッセージの前にメッセージが出力されている場合、本メッセージ発生前のメッセージに応じた対処を行った後再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。

本メッセージの前にメッセージが出力されていない場合、Systemwalker Centric Managerが正しくインストールされていないか、動作環境が壊れている可能性があります。保守情報収集ツールを使用し、すべての機能の情報を採取して、技術員に連絡してください。保守情報収集ツールの使用方法については、“Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書”の“対処方法の各手順”の“保守情報の収集方法”を参照してください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4013: Directory (%1) does not exist.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4013: ディレクトリ (%1) が存在しません。
```

【メッセージの意味】

コマンドオプションに指定されたパラメタに指定された、出力先、入力元ディレクトリにアクセスできません。

【パラメタの意味】

%1: ディレクトリ名

【対処方法】

表示されたディレクトリの有無、書き込み可能かどうかを確認し、アクセスできない原因を取り除いてください。

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4014: The specified path to the folder is too long.
```

```
md_appmgr_mps: ERROR: 4014: フォルダパスが長すぎます。
```

【メッセージの意味】

コマンドオプションに指定されたフォルダパスが設定できる最大長を超えています。

【対処方法】

フォルダパスとして指定できる最大長は、以下のとおりです。

Windowsの場合 : 200バイト以内

UNIXの場合 : 970バイト以内

フォルダパスを変更し、再度、md_appmgr_mpsコマンドを実行してください。